

公立大学法人札幌市立大学で理事長・学長を務める蓮見孝氏。医療とデザインという異分野の融合や、社会を拓くデザインのあり方など、新たなデザインの可能性を模索する蓮見氏を紹介する。

異分野の融合がもたらす新境地

デザインが運ぶ豊かな社会

大学卒業とともに、日産自動車のインハウスデザイナーとして20年間、エクステリアデザインに携わりました。そして1991年に筑波大学に専任講師として着任しました。

筑波大学では、茨城県や県内の市町村を中心に地域のデザインに関わってきました。日立地区の中小企業の自立を促す地域産学官共同研究事業、茨城県酒造組合の依頼による純県産酒のブランディング、廃業の危機に立つ酒造所の再生、消滅が危惧される石材業の活性化など、プロジェクトは多岐にわたります。

大学では、キャンパス内にある筑波大学附属病院（以下、附属病院）で、10年以上にわたりホスピタル・デザインに取り組みました。医療環境改善の推進は、デザインの社会的な役割への期待に応えるものと思っています。

そのきっかけは、附属病院に行った時に感じた殺風景で冷たい印象で

はこれまで日常生活とはかけ離れた孤高の存在でありがちでした。これからはダイレクトに社会に関わろうとする能動的アートのあり方も模索されていくことでしょう。そしてアートをよりよく社会につなげるしくみをデザインがつくり、アピールしていく。それが顕著に表れるのは医療の世界なのかもしれません。

医療関係者にも、積極的にアートを取り入れようという動きが見られます。終末期の患者さんはこれまで安静を保つことが常識でしたが、今は折り紙などの日常的表現行為を行いながら自然に最期を迎えるケースも見られます。人間らしく生き尽くすというような死生観を大切にするケアのあり方が求められています。そこにアートとデザインの新たな可能性が感じられるのです。

した。大学には若い学生たちが大勢いて活気があるのですが、同じキャンパス内にある附属病院の雰囲気は、全く異なるものでした。そこで、ユニバーサルデザインを教えていたこともあり、課外活動として病院通いをするようになったのです。学生たちも、日常生活とかけ離れた病院の環境に違和感を覚えたようでした。

例えば、ホテルで「6人の相部屋です」と言われたら泊まる気にはならないでしょう。しかし、入院となれば、6人部屋に入れられて、自由もプライバシーもない生活を強いられます。患者さんにとつては、入院も生活のワンシーンであり、もし1年間入院したとすると、それは人生が80年だとすれば80分の1にあたるのです。ここで、療養環境の改善に真剣に取り組もうということになりました。

まずは看護部において、院内

医療とデザインが融合する大学

デザインの新たな可能性

2012年4月から札幌市立大学の理事長・学長となり、大学のデザインを託されることになりました。大学は、デザイン学部と看護学部の2学部で構成されていますが、その両者は全くの異分野だと思われてきました。しかし連携を密にすることで、人の生涯をより充実したものにすることが推進できるのではな

いか、と思っています。

大学における（D×N）、つまりデザインと看護の連携の地平を指し示すものとして「ウェルネス」というキーワードを掲げました。誰もがイキイキと暮らし続けられるしくみのデザインです。極端な例ですが、認知症のお年寄りがいって徘徊を始める

でアート活動を始めました。かわいらしい日めくりカレンダーをデザインし、無機質な空間だったトイレに置きました。いつも誰かがめくつてくれていることを確認できました。冬になると入院患者さんとクリスマスリースづくりのワークショップも行いました。参加前と後では表情が激変し笑顔が見られることを観察することができました。

大学に隣接する筑波メディアカルセンター病院では理事長先生の理解を得て、50mの長い廊下でアート展を開催し、それをきっかけとして、家族控え室のリフォームや食器プレートの改良、さらにガーデニングへと活動が広がりました。

今、アートとデザインは医療機関との連携を深めつつあります。アートミックケア学会の活動など、様々な広がりが見られるのです。アート



学生が夢を語れる社会へ 新たな価値を生み出すクロスデザイナー

■はすみ たかし プロフィール

札幌市立大学 理事長・学長

略歴

1971	東京教育大学教育学部芸術学科工芸工業デザイン専攻卒業
	日産自動車株式会社造形部入社
1976	ROYAL COLLEGE OF ART校(英国)社命留学
1987	日産自動車株式会社デザインセンター第一モデル課長
1988	同エクステリアデザイン室代表主担
1991	筑波大学芸術学系専任講師
1993	同助教授
2000	同教授
2004~	同大学院人間総合科学研究科教授
2002~04	芸術専門学群 副学群長
2004~08	筑波大学広報戦略室長
2008~09	筑波大学学長補佐
2012~	札幌市立大学 理事長・学長

著書

『マルゲリータ女王のピッツァーかたちの発想論』(単著) (筑波出版会発行・丸善発売/1997.7/1,600円)
『ポスト「熱い社会」をめざすユニバーサルデザイン—モノ・コト・まちづくり』(工業調査会発行/2004.9/2,205円)
『地域再生プロデュース—参画型デザインングの実践と効果』(文真堂/2008.4/2,100円) 他

学会活動/外部活動等

日本デザイン学会理事・評議員(現)
グッドデザイン賞:グッドデザイン・フェロー(現)
東海旅客鉄道株式会社 デザイン委員会委員(現)
財団法人日本サイクリング協会評議員(現)
茨城県生涯学習審議会・社会教育委員 会長(現)
いばらきデザインセレクション審査委員長(現)
茨城県都市計画協会「まちづくりアドバイザー」(現)
茨城県中小企業テクノエキスパート(現)
国交省 観光まちづくり事業(常陸太田市)座長(2008~2009.3)
茨城県総合計画審議会 副会長(2009.11~2012.3)